

郷の集い

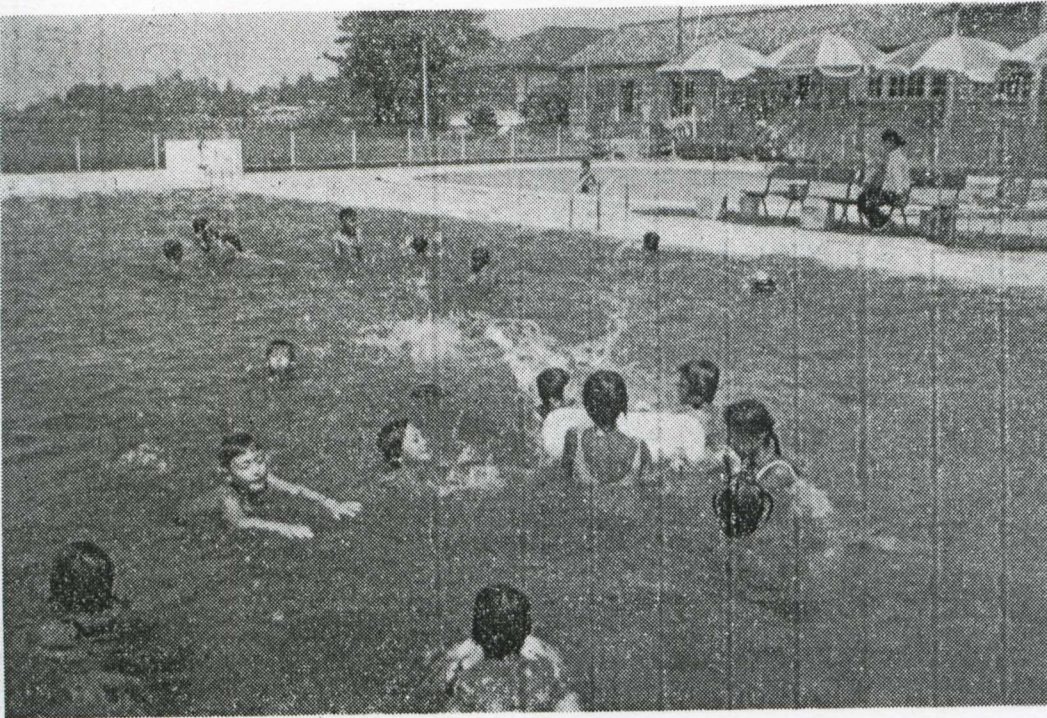
発行

新郷校愛護会文芸部
編集責任者
竜田竜美

印刷所
久野印刷株式会社

プールに思う

学校長 北川耕造



新郷プールに四度目の夏がめぐってまいりました。

今年はおき上げ工事と、水不足のため、開設がおくれましたが、うだるような暑さをよそに、楽しみに泳ぎまわる子供たちの姿は、まさに幸そのものと言ってよいでしょう。美しい海も、清らかな小川の流れも、私たちと縁が遠くなったような昨今、子供たちにとって、プールは何よりの贈り物だったなど、しみじみ感じさせられます。

暑い時、水にはいつて魚や貝をとったりすることから、泳ぎが始まったと思われませんが、陸上に生活する人間は、水をおそれる本能を持っていくようです。水泳をやると先づ、水に対する恐怖心をとりに除いてやらねばなりません。それには小さい時から水に親しませることが大切です。

わが国の学校で、水泳が取入れられたのは、比較的新しいことのようにですが、西洋ではギリシヤ時代、馬鹿者のことを「書くことも泳ぐことも出来ない」と言っているそうです。最近では赤ん坊の時から、水泳をさせる例も聞いています。

然し水泳はスポーツの中でも一番はげしい運動です。なぜなら空気の抵抗をひとすれば、水のそれは八百倍にも当るからです。だから、からだの弱い人、特にてんかん、卒倒しやすい人、心臓や腎臓の悪い人、陽転者、かっ

け、眼や耳の病気の人などはやっけていけません。丈夫な人でも、いきなり準備運動もしないで、水にとび込んだりしてはいけません。はもちろんです。

要は無理せずに正しい練習を積むことが大切です。

最後に、今年もプール監視のこゝとなどで、愛護会の皆さんにお世話になりますが、よろしくお願ひ申し上げます。

母親学級の使命

級長 岡田靖子

この度、私が母親学級の級長を務めさせて頂く事になりました。歴代の級長さんの様な輝かしい活躍はとも私には出来ませんが、私の出来る範囲の中で頑張りたいと思います。どうか皆様方の暖かい御支援を御願ひ致します。級長としての抱負をこの事ですが、お受け致しましてからまだ日が浅く何も役目らしき事も遂行致してはおりませんので先日県青少年センターに於きまして母親研修大会が開かれまして私も出席しました。私なりに感じた事をこの書面をお借りし報告させて頂きます。

今日の目まぐるしく移り変わり、様々な憂うべき傾向、悲しい事例を生じている社会情勢の中で、心身共に健全で豊かな人間性を持つ子供達の育成を期するために、すべての母親と先生方が手を取り合って努力しなければいけないのは勿論ですが、この時において特別に母親として如何に家庭に於ける情操教育をすすめて行けば良いのかと云う趣旨にもつき一日活発な討議が行われました。

今日程、家庭教育の重要性を求められている時はかつてなかったと言えましょう。家庭での情操教育と一口に言いますと、何かおけ

いことをさせると言った様に考えられがちですが、情操の心が育つためには物的な環境を整える事よりも子供と周囲の人との対人関係のあり方、云いかええますと親が子供をどう感じ接しているかと云った親のあり方の問題であるとの事です。子供達は親の生活をみなながら成長して行きます。学校では色々な知識は身につけて行きますがしつけ、宗教心、物事の善悪の判断、は家庭教育の中でこそ培われて行くものなのだと思います。何如に科学が進歩しても「魂と魂のふれ合う教育」は機械では出来ません。情操豊かな母のものの見方感じ方、行動こそ子供の情操を養って行くものと思われれます。母親学級と致しましてはかような観点から母親学級をすすめるれば良いのではないかと思われれます。今後、著名な講師の方々をお招きし、良いお話を聞きまして行きたいと思ひます。講話をお聞きし、何か心に感じ家庭に帰られてご主人との生活、お子さんとの生活に少しでも還元されて行くならば、それで母親学級としての使命は十分に達せられるのではないかと思ひます。

会合の中である来賓の方の言葉が、私の胸に焼きついておりましたので、その御言葉をお借りしますと、「現代は次の時代を造り出す為の準備期間である。次の時代をになうのは今の子供達でありその子供達を育てているのは今の私達親なのである。次の二十一世紀が輝やかしい世代になるか、それとも暗黒の世代になるか、それは今の私達親にすべてがかかっているのだ。」と言われた言葉が印象深く母親としての責任の重大さを痛感した次第でございます。今後、母親学級に一人でも多くの方々が御出席下さいまして皆様方と共に考え学びこの伝統ある母親学級を盛り立てて行きたいと考えています。

児童作文

私のすきになつた町「京都」

六年 山崎三千代

大阪の町は、交通が発達してあります。工場も数多くたてられています。たくさん人の住宅が建ちならび高速道路も通っています。第二次第三次産業が発達しているようです。でも公害がひどく、においがくさくて、空はスモッグ、海では魚が住みにくく、きたない海です。それに緑が少ないところでもあります。

神戸の町は、港で有名です。交通も大阪と同じように便利がよい方です。工業も発達していて、公害もあって、海がよごれていきます。

奈良の町は、古っばい感じの町です。また緑があつておちついた町です。古くからのお寺や、それに有名な大仏様もあります。空気が少し悪いようです。

京都の町は、しずかなただずまいを見せています。平安神宮などもあり、奈良について古くからの町です。緑が多くて木がたくさん立っています。空気によごれは、やはり少しあるようです。

この四つの町が修学旅行で見て来た町です。その四つの町でこんな町がいいなと思つたのは奈良と京都です。一番いいのは京都です。その理由は、神戸や大阪にくらべて公害が少ないということです。もう一つは、古くからの町だということ。むかしからのただずまいを見せて、しずかな感じがするからです。しずかな所に住む方が私はすきです。でも住んで

みて自動車などでやかましいかもしれません。ただ見た感じでそう思つただけだからです。

新聞なんかでよく公害のきじがのっています。またテレビでも公害のニュースがよく出ます。それもみんな、東京、愛知、大阪などの都市が多いようです。それだけ工業が発達しているとも言えるかもしれません。工場があれば働くのにも、みつげやすいし、交通も便利です。その点では、大阪や神戸は、よい所です。これからもつと発てんをつづけることだろうと思ひます。

奈良や京都は、大都市の大阪とも近いし、愛知県にも近い所です。その点では、まだまだ、大阪や神戸とちがう発達のかたをするでしょう。私はそれをたのしみにしています。京都の町を、私はすきです。

臨海学習

五年 森 みゆき

五、六年で、二十三、二十四日に、福井市鷹巣国民宿舎へ行きました。

十時ごろ、国民宿舎に着き、荷物を整とんしました。おやつを食べてから、昼ねをしました。みんな、寝ているが、私と高平さんは、ぜんぜん、ねむれなくて、わらつてばかりいました。

昼ねがすんで、わらぞうりをはき、海へ行きました。海では、もすくや、いろいろな海草を取っていました。とてもつかれ、くたくたになりました。

それから、おふろに入り、シャワーをあびました。おふろから、あがつてから、取ってきた海草の整理をしました。それから、夜のごはんを食べ

ました。すんでから、へやで、ゲームをしました。いろんなゲームでやったことのないゲームなので、とても、おもしろかった。私たちの、三ばんは、負けてばかりいて、ばつの歌を何回も歌わされました。

私のよこは、青木さんで、すぐねてしまったので、私も目をつむつたら、つかれていたので、気持ちよくねむれました。

プール

四年 山田 元成



はくの学校のプールは、ことし深くなったから、高いところから飛びこんでも、下につかなくなつた。今は、深くなったけど、ごみがあるから取つてほしい。そしてうれしかったことは、プールで、クロールがうまくなったことです。三年のときは、息がでなかつたけど、四年生になったら、できるよになつてきた。いやなことはソフトボールで、プールに入れないことです。ソフトボールの練習は、毎日あるので、ときどき プールに入りたいと思つています。

はくは、クロールはとくいですが、平およぎはあまりできません。ときどき平およぎで、横の長さまよいかれたことがあります。平およぎは、おそいので、友達ときよ

プール

三年 竜田晴美

わたしはプールに入ってゆかりちゃんとバディーを組みました。始め、深いプールに入った時、少しなまぬるいからよかつたと思つた。わたしはゆかりちゃんと、「きょうそうしょ。」

と、言つて、きょうそうをやりました。わたしは、ゆかりちゃんに負けてしまいました。

「イヤー、イヤー。」と、言つてあまりひとりでは泳ぎませんでした。

マリンスポールや白いのをつかつて泳いでいました。

わたしとゆかりちゃんは、「おもしろいよ、ついでにみればいいのに。」

とか、話していました。

ゆかりちゃんはさきに泳いで行ってしまふので、わたしも泳いでおつかれました。泳いでおいかけるので、とてもたいへんでした。

さいごの時間ごろに、高いところから、とびこみました。わたしは、こわいので、その上を上がつたりおたりしました。ゆかりちゃんは一回目、うまいききませんでした。ちかちかちゃんは一回目から、ちゃんとできました。わたしはそれを見て、おもしろいよ、とびこんでみました。そして、うまいききました。でも、鼻にツウリンとききました。二回目もそうになりました。

プールは大すきだ

二年 藤山裕幸

はくは、きょう年 プールで、みか子ちゃんに、およぎ方を おしえてもらいました。一ばんはじめに、うくのをしました。それから足をばたばたして、目をあけました。そうして、はくは、およぎるよになつてきました。おかあさんがプールとうばんのときに、およぎのを見せてあげました。

水の中で、じゃんけんをしたり、きょうそうをしたりしました。はくは、もつと、もつと、長くおよぎたいです。まるいプールで、まるくおよぎました。ひなたぼつこをするとき、よく日に、あたりました。さかしまになつて、およぎと、はなの中から、水が、い

つぱい、入つて、きました。その時は、とてもくすかつたです。でも、あとで、なかつてしまいました。そうして、はくは、また、れんしゅうを、なん回も、なん回も、つづけていました。そして、

だいぶ、いきを、とめて、いられるよになつてきました。はくは、ふかいところでも、およぎるよになつて、思つていま

その時、なんじよう先生が、わたしとちかちかちゃんに、「うまいわ。」と、言つてくれたので、とてもうれいでした。三回目は、わたしにも、ちかちかちゃんにも、なんじよう先生が、「頭からつっこむとつとよなるぞ。」

と、言つてくれました。わたしは、これから、それに気がつけてとびこもうと、思ひました。とても、楽しいでした。

ぶーるにはいつた

一ねんやまざきよしかず

きょう ぶーるへ はいりまし
た。もぐるのが むずかしかった
です。うきあがるのは からだの
ちからを めいて いきました
そしたら、うきあがりました。
こんどは、たかい ところから
はなを つまんでとびこみまし
た。とんだら はなに みずが
はいるからです。
しげきちゃん と ぼでいで ま
んなかまで いきました。まりん
ぼーるを ぎゅうつと ふんだら
ぼくも みずに しずんで い
きました。しばらくして まわつ
て おきたと おもったら また
ぶーるへ もぐって いて
しまいました。

かねが かんかんと なったか
ら しげきちゃんはどこへ いて
たのかと おもったら とぶとこ
ろに いました。

きょうは うれしかったので、
もう いちど はいりたいとお
もいます。

ぶーる

一ねん おかだしんご

きょう、たいいくの じかに
ぶーるへ はいって およきま
した。

大きい ぶーるへ はいったと
きは およがれなかったのに、ま
りんぼーるでやったら およがれ
ました。

小さい ぶーるより 大きい
ぶーるの ほうがおもしろかった
です。

つねおちゃんと ぼでいを く
んで あるいて いたら 大き

いぶーるはまん中の ほうが
すべりました。そして、ぼでい
が はずれるように なりました
みずが はなの 中に はいりま
した。

かねが なって やすんでいた
ら、くしゃみが 二へん でまし
た。

えいちゃんは かおを つけて
およげなかったから ぼくが
おしえて あげたのに できなか
ったです。

ぶーるから あがった ととき
こんくりーとの ところに はらを
したにして からだを ほした
ところが おもしろかったです。

子ども会、リーダー 研修会に参加して

五年 齊藤雅代

私は、自分の希望によって、子
ども会リーダー研修に北潟青年の
家へ行きました。

はじめは、会議室に入って、自
己しようかいを、し合いました。

それがおわると、一度、へやに
入りました。へやには、二段ベッ
ドが四つあって、少し、小さいへ
やだった。荷物をおろして、また
会議室に入った。そこで歌を中学
のおねえさんに教えていただきま
した。

夕方、「夕べの集い」をして夕
食になりました。

よる七時から、キャンドルサーピ
スで、いろいろな、だし物を見ま
した。

それからは、自由時間なので、
体育館で遊びました。

つぎの日の朝は、六時に起きて
「朝のつどい」をしました。朝ご
飯を食べて、それからゲームをし
ました。いろいろなおもしろいゲ

夏に思う

中浜 田畑和夫

今年も「水の季節」がやって来
ました。大人にはこの季節は暑さ
との戦いであるが子供達には待
まった夏であり、水のシーズンで
あり、一年で最高のバケーション
であるわけです。我が新郷校のプ
ールも七月中旬より開放され幼稚
園から高学年まで、毎日元気なカ
ップ達が楽しく泳いでいます。昔
しの事を云うと笑うかも知りま
せんが、私達子供頃は、低学年は
農業用水で懸命に泳ぎの練習を毎
日のようにやり、高学年にもなる
と九頭竜川、竹田川へ中学、高校
生達と一緒に泳ぎに行き、「今日
は岸から岸まで泳げたとか、何秒
何分もぐれた」とか父母に云って
ほめられて一人で喜んでいた事
今でも忘れません。又、水をしこ
たまのんで死ぬ程苦しんだ事も
今までも思い出すものです。先日
プールで泳ぐ子供達を見ていて、
自分達が子供の頃こんな立派な
プールがあったらどんなに楽しか
った事かと羨ましく思ったもので
す。川で泳いだ頃は水死者が出た
事を父母から聞いたものです。今
日の様にプールで泳ぐようになって
からプールでの水死者なんて聞
いた事がありません。私共も安心

して子供達をプールに行かせる事
が出来ます。子供達ものびのびと
泳いだり、はしゃいだりして楽し
そうです。家に帰ってくる時、お
父さん僕今日は三米程泳げたとか
平泳ぎが少し出来る様になったと
か云って喜しそうに話す子供を見
ていると、やはりプールが出来て
良かったと思うものです。海や川
で今年も早や十名の犠牲者が出た
とニュースで云ってましたが我が
校下ではその様な事もなく、水泳
の上達だけが增えています。これも
よりの事と喜んでいきます。これも
関係者の皆々様のお陰と深く感謝
しています。私の願いとしては、
この幸福な子供達の中からオリ
ンピックに出る様な選手が出てく
れないものかと思うのですが、...
私の夢が実現する日は是非実現し
てほしいと願って止みません。

郡PTA連合会幹部 研修会に参加して

河間 三上教子

去る六月九日(土) 丸岡中学校
に於いて郡P連幹部研修会が行な
われました。テーマは「非行化防止
対策について」オリエンテーショ
ンに丸中校長先生の話を始めに、
子供が非行化するにはいろいろ原
因があり学者側から見た説、裁判
官側から見た説等を説明なさいま
してその中で最も関係深いものは



家庭における教育が不十分な所
に、原因があると力説されました
六分散会の結果をまとめて報告さ
せていただきます。子供は幼児小
学時代に善と悪の区別をはっきり
させる事。中学高校時代では手お
くれ「子供を過保護にしないこ
と」子供のいいなりに親はふり廻
されていけない?今の親は自分だけ
働いて子供には何もさせないのが
いけない。家族の一員として出来
るだけ家の手伝をさせる。仕事を
通じて子供を鍛えることが肝要で
ある。節約させ、もったいない感
謝の気持、がまんする気持が大切
である。子供部屋等時々見る。親
と子の話合の場を出来るだけ多く
持つという事。親と子のあたたか
い心の解合の中から、あたたか味
のある子供が育って行く。忙しい
世の中であればある程親と子の結
合が大切である「親は子を知ると
いう事」共働で忙しい為子供が置
去りにされている家庭が多いが、
子供達は寂しさの余り同じ環境の
仲間を求めその中から非行が生ず
る。家庭と学校とのつながりをも
つと深く持つという事、不断着で
も学校に行ける様な心構えが大切
である。大人の遊ぶ所は沢山あつ
ても子供の安心して遊ぶ施設が少
ない。あれもいけない。これもい
けない。これは非行は防げない。家庭
の躰というものは、耳で聞くもの
でもなく目で覚えるものでもな
く、親の日常茶飯事の行動態度
が、子供達に大きく左右している
のではないだろうか。

それには親はもっと自己の研修
が必要であるという事でした。
以上子供の非行化に備えてこの
様な声が寄せられましたことを報
告させていただきます。

ごあいさつ

愛護会会長 坪田万右エ門

校下の皆様、日頃学校愛護会の運営にたいしまして、特段のお力添えを頂いておりますことを厚くお礼申し上げます。

昨年不安な気持で大役を引き受けて参りました。前半を大過なく過ぎましたことは、皆様方の暖かいご理解とご協力の賜ものと深く感謝いたしております。

P.T.Aは、学校の設備後援会だけでなく、社会教育団体としてもっと伸びて頂きたいと思えます。子供をとりまく社会環境を見、考えますと、子供が明るく豊かな人間性に育つよう、親としてもつと良く考へて、講演会や地区懇談会等の集いに、是非出席して下さるようお願いいたします。

現在は皆と違つて、文化情報は電波に乗つて、いろいろな知識が伝達されています。

今の子供は万引して見つかつて「返せばいいだろう」といつて恥じないそうです。昔の子供は「かんべんしてください」と先生にも親にも恥を知り、泣いてあやまったようです。このように精神不在の子に育たないように、考えたいと思ひます。

又親として身に付けなければならぬこともあると思ひます。たとへば、松下電器の会長さんが現在のように大きくなる以前ですが取引先の店がつぶれることがあるので、どのような店と取引きをしたらよいかと考へ調査したそうです。

店の人と会つたときの感じや社

会的外観上での取引きでも失敗があり信用できる店、その信用できる店とは、夫婦が仲よく、又家の中、店のものが一致して取け合っている店であると言ふ意味のことを聞かされました。

このように子供としても、親としても信用されるように心に人情味あるものを身につけて頂きたいと思ひます。残り後半を一生懸命頑張つて行きたいと思ひますので皆様のご指導とご協力をお願いします。

少年愛護セン

ターについて

齊藤 豊

今年の四月一日から、芦原町に少年愛護センターが置かれ、教育委員会が管理及び運営にあたることになりました。

芦原町内のどの少年も健全に育ち非行に走る少年が一人でも少くなるようにとの願いから生まれた制度です。少年が曲つた道に入り込むのは家庭にもなにか原因があると思ひます。

たとへば、偏食によつて母親をなやませると、父親はひりに食べさせようと、それでも食べないと、わがままな子どもだと云つて叱る。母親は子どもの性格や気性をよくのみ込んで、食物に工夫を

こらし、子どもの好みを考へて、気持よく食事ができるよう細かい配慮が必要です。

はじめから罪を犯そうなどと考へる子どもはありません。ひまをもてあますために、つまらぬことを考へそれが悪い道につながつて行くものです。先生は、たくさん生徒を受け持つておられるのですから、両親のように一人一人の子どもに細かい心くばりはできません。

知識ばかりでは、りっぱな人間にはなれないと思ひます。子ども一人一人の長所や欠点、健康上の特長をこまかく観察していろいろなしつけをする両親と、学校の先生とが協力し、その上愛護センターの皆さまの補導を加えてこそ、りっぱな少年を育てることができるものと考へます。

愛護センターの発足を喜ぶとともに、父兄の皆さま、学校の先生方についてその努力をお願いするものであります。

喜びの心

中浜 藤 田

うだるような暑いこの頃、肉体的にも精神的にもすっかり疲れきつてしまふ。こんなときにもすれば、ちよつとしたことですぐ頭にくる。

例えば仕事から帰るなり、当然の権利のように怒り声で、だれかれと差別なくあたりちらす。それは本人は、胸がすかつかつするかも知れないが相手こそいつらの皮である。本人は後味の悪いものを残す。およそ人を恨んでみても気は晴れないし、殊更愛想を云つてみても気持のよいものではないとかく心の中に不純なものが介在する限り我も他も心の快哉はない。

そこへいくと笑の生活は常に朗らかであり喜びの日暮しは太陽のように明るい。そこにこそ生活の誇りと人生の生甲斐がある。家庭の平和は常に喜びと笑のるつばの中から生れてくるものであると云いたい。

新郷チーム・子供会

ソフトボール大会に惜敗

八月九日芦原中学校で開催した子どもソフトボール大会に、新郷チームは最強のメンバーで出場したが二回戦で、相手は優勝チームの二面温泉Aと対戦し、最終回の反撃及ばず惜敗した。

夏休みと同時に、チームを編成し、汗とほりにまみれ毎日練習を重ね、今年こそと頑張つたが、先生父兄の声援もなしく惜敗した。しかし最終回の反撃はすばらしく、これが二回か三回にチャン

- 監督 吉江竜彦
- コーチ 小島 力
- 投手 吉江憲郁
- 捕手 近藤健二
- 一塁手 岩井敏行
- 二塁手 山崎 満
- 三塁手 吉江隆行
- 遊撃手 吉江和彦

- 左翼手 篠崎利見
- 中堅手 小島郁徳
- 右翼手 童田敬一
- 補 欠 篠崎 修
- 三上儀秋

チ	ム	名	1	2	3	4	5	計
二	面	温 泉	3	1	2	2	5	13
新		郷	0	0	0	1	6	7



七月中旬の暑い夜でした。編集委員が相い集い藤井先生を中心にして郷の集をどう編集しようかと相談、原稿収拾、紙面の変更等意見が出されました。

夏の暑い時期にちなんで、子どもが元気にプールではしゃいでいる姿を写真に載せました。なれないため、レイアウトなど欠点もあると思ひますが、よい郷の集いにしようと思ひ努力しました。

なお原稿を提出して下さった一ねんやまさきよしかず君はじめみなさんに感謝しております。

吉江